

科目名	応用経済B	科目コード	1162	単位数	2
担当者名	李 炯直	開講セメスター	第6セメスター	開講年次	3年次
授業の方法	講義	実務経験	無		

● 授業のねらい

ミクロ経済学の様々な経済理論を学習し、その理論を通して実際の経済分析に対する応用力や現代の日本経済における様々な課題を発見・解決できる能力を身につけることを目的とする。

● 到達目標

経済学の数理的・理論的な知識を身に付け、様々な経済の動きが理解できる  
基礎的な英語の経済用語をきちんと学習し、英文のニュース記事や学術論文などを通じて世界中の多様な経済の動きを正確に把握できる力を身につけることを目標とする。

● 授業内容

- 1週目 Introduction to Applied Economics B: Understanding How Markets Work
- 2週目 Review of Mathematics for Applied Economics
- 3週目 Understanding Basic Econometric Tools
- 4週目 Dealing with Fractions
- 5週目 Demand and Supply
- 6週目 Elasticities of Demand
- 7週目 Mid Exam 1 and Total Revenue
- 8週目 Elasticities of Supply and Using Resources Efficiently
- 9週目 Consumer Surplus and Producer Surplus
- 10週目 Market Failure and Deadweight Loss
- 11週目 Understanding the Labor Market
- 12週目 A Minimum Wage and Unemployment
- 13週目 Mid Exam 2 and Government Actions in Market
- 14週目 Housing Markets and Rent Ceilings
- 15週目 Final Exam and Review
- 16週目 Overview of the Global Economy and Discuss

但し、やむを得ず15週目までの授業内容を実施できなかった場合、補講授業の実施

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：本学のEラーニングシステムであるCoursePowerまたはGoogle Classroomを利用し、毎週事前に提示される予習課題の作成や次回の講義資料を読むこと。（必要な予習時間：2時間程度）

復習：毎回の講義中に提示される復習課題を完成し提出することや、講義内容のまとめノートを作成し提出すること。（必要な復習時間：2時間程度）

● 成績評価の方法・基準

- 復習課題(10回×2%)：20%
- 中間テスト(2回×20%)：40%
- 期末試験：40%

● 履修上の留意点

「応用経済A」を履修していることが望ましい。  
授業中、事前許可なしでの通話、写真撮影、Lineなどの携帯電話の使用は厳禁（携帯電話の使用が見つかった場合、理由を問わず退室処分し、当該授業時間は欠席処理する）。  
遅刻の場合、当該時間のみ欠席扱い（休み時間後続く授業時間に対しては次席扱いにはならない）。  
成績の評価は、全16週のうち、11週以上授業に出席した学生を対象とする。

● 課題に対するフィードバックの方法

全ての提出課題やテスト結果に対し、毎回採点を行い、点数とコメントでフィードバックを行う。

● テキスト

特になし。必要な講義資料は本学のEラーニングシステムであるCoursePowerまたはGoogle Classroomを利用し配布する。

● 参考書

Bade, R. and Parkin, M.著『Foundations of Microeconomics (6th ed.)』（Pearson）

● 更新日付

2022/03/01 05:31